

2 食糧作物の高付加価値化の進展状況

東北三省では高付加価値化のための農産加工業として、精米業、トウモロコシや大豆等の加工産業が振興されてきた。この章では、トウモロコシ加工、精米・ブランド米、大豆加工の分野における発展状況についてとりまとめる。

2.1 トウモロコシ工業用加工（飼料用途を除く）²¹

中国のトウモロコシ 2010 年生産量 1 億 7725 万トンのうち、工業用消費量はおよそ 3 割の 5250 万トン を占める²²。6 割が養豚や養鶏等の飼料用で、残りの 1 割が直接食用や種子等に用いられている。中国では飼料・穀物需給のひっ迫懸念があり、2005 年以降、中央政府の方針として工業用消費増が抑えられていたが、トウモロコシ生産が再び大きく伸びてきた 2009 年以降、再び工業用消費の割合が増加に転じている。本項では主に、高付加価値化のために吉林省や黒竜江省で推進されているデンプンやアルコール、バイオ化学製品等の工業用加工（飼料用加工を除く）についての現状をとりまとめる。

トウモロコシ由来のでん粉生産量は 2010 年に 1982 万トン²³で、歩留まり率を 68%とすると、トウモロコシ消費量は 2915 万トンであり、工業用消費の 56%を占める。でん粉のうち一部は糖化製品に加工される。残りの 44%、計 2335 万トンが飲料用・燃料用アルコールと食品加工向けとなる。中国で広く消費されている蒸留酒の白酒は主にトウモロコシを原料としている。燃料用アルコールは、一時期生産が推進されたが、飼料需給のひっ迫懸念が生まれたため、現在は中糧の子会社である吉林燃料乙醇（吉林省）と中糧生化能源（肇東、黒竜江省）を含む 5 社以外は許可されておらず、生産能力は計 180 万トンで生産量は計 130 万トン（トウモロコシ消費量に換算して約 430 万トン）程度と、工業用トウモロコシ消費量のおよそ 8%を占めている。

東北三省の中では特に吉林省が 1980 年代からトウモロコシ加工産業の育成に努めており、加工品生産量では 719 万トンと山東省に次いで 2 位、21.3%を占める。また 2009 年に吉林省を追い越しトウモロコシ最大生産省となった黒竜江省でも、加工生産量が増加して 4 位につけた。

表 24 主要省のトウモロコシ生産量、トウモロコシ加工品生産量（2010）

	単位) 万トン			
	トウモロコシ生産量	シェア	トウモロコシ加工品生産量	シェア
全国	17,725	100.0%	3,374	100.0%
東北三省				
遼寧	1,151	6.5%	130	3.9%
吉林	2,004	11.3%	719	21.3%
黒竜江	2,324	13.1%	263	7.8%
その他主要省				
山東	1,932	10.9%	911	27.0%
河北	1,509	8.5%	367	10.9%
河南	1,635	9.2%	232	6.9%
内モンゴ	1,466	8.3%	192	5.7%
陝西	532	3.0%	161	4.8%
安徽	313	1.8%	155	4.6%

出所) 2011 中国糧食年鑑

²¹ (張馨元 2010b)、(郭 2009)、(河原 2011)、(張馨元 2010a)等を参考にした。

²² 中国玉米網による

²³ 中国でん粉工業協会による

国家糧食局の統計によればトウモロコシ加工を行っている企業は 371 社と比較的少なく、総処理能力は 6717 万トンである。しかも、このうち日産処理能力 400~1000 トン（年間換算 13~33 万トン程度）の加工業者が 73 社で合計処理能力 1392 万トン、日産処理能力 1000 トン以上（年間換算 33 万トン以上）の加工業者が 69 社で合計処理能力 4405 万トンとなっており、日産処理能力 400 トン以上の比較的大規模な加工業者の処理能力が全体の 86%と、トウモロコシ産業は上位に集中している。

吉林省では、1980 年代に省政府がトウモロコシ加工基地を推進する方針を打ち出し、1990 年代には白酒等の飲料用アルコールだけでなく、工業用アルコール、でん粉（コーンスターチ）、飼料工場等が盛んに設立された。2001 年に吉林省政府は「農業産業化弁公室」を設置してトウモロコシ加工を含む農産物加工企業への支援を拡大し、2006 年には大規模投資に対して利子補助等の産業化支援を強化、さらに各市レベルでも誘致合戦が本格化した。吉林省のトウモロコシ加工業は 2000 年代に入って急成長を遂げ、アミノ酸、化工でん粉、糖化製品等の製造や、燃料用エタノールの生産が開始された。これによって吉林省で生産された大量のトウモロコシの販路が大きく拡大し、「販売難」を克服することができ、また生産拡大にも繋がっている。2010 年に吉林省には年間トウモロコシ処理能力 1 万トン以上の会社が 25 社あり、計 1300 万トンの処理能力となった。吉林省では工業用トウモロコシ消費量が 7 割程度で、全国平均とは逆の比率である。

中央政府の方針としては、飼料のひっ迫懸念から、工業用トウモロコシの消費は抑えたい考えがある。ただし、吉林省政府は第 12 次 5 ヶ年計画時期において加工施設におけるトウモロコシの処理能力を 1000 万トン程度に安定させる（2010 年ですでに 1300 万トンを超えている）との考えを示しているが、一方で、食糧加工分野では引き続き、トウモロコシの高度加工を最も重視し、積極的に推進するとしている。特にトウモロコシ食品を大衆化するとともに、工業用アルコール類や樹脂等の高付加価値製品生産を発展させるとしている。

吉林省のトウモロコシ加工の最大手は長春大成実業集団である。香港株式市場に上場する大成生化科技集団の傘下であるが、世界第四位のでん粉メーカーであり、吉林省には 1996 年に創立し現在も最大の加工拠点であるが、黒竜江省と遼寧省にも展開しており、他に上海市等にも製造拠点を有する。グループでおよそ 1,000 万トンのトウモロコシ処理能力があり、でん粉、糖化製品、アルコール、DDGS 等飼料など、多様な製品を製造している。特にグリコール等のバイオケミカル原料となる工業用アルコール生産やポリエステル等バイオポリマー生産が注目されている。

東北地方のトウモロコシ加工のもう一方の雄は国有企業かつ中国最大の農産食品企業集団である中糧集団（COFCO）²⁴である。中糧集団は 1980 年代末から 1990 年代にかけて、吉糧やカーギル等との合弁事業によってでん粉や糖化製品の生産を開始しているが、2000 年代中旬からは独資で積極的な投資を進め、吉林省、黒竜江省に大型製造設備を整備し、現在東北三省だけで合弁・独資併せて 625 万トンのトウモロコシ処理能力となった。

遼寧省と黒竜江省では、吉林省からはやや遅れたが、2000 年代後半になってそれぞれ省政府がトウモロコシ加工産業、特に高度加工の振興のための施策や投資誘致をし、地元企業では鶴岡興澤集団（黒竜江省）、峻煌生化科技集団有限公司（遼寧省）、亜州生化集団（遼寧省）や、国有農場の黒竜江省農墾内の企業のほか、前述の中糧や長春大成、中国で最大のトウモロコシ加工産地の山東省の有力企業ら、あるいはカーギルや韓国 CJ グループ等からの出資を得ながら、トウモロコシ処理能力数十万トンクラスの大規模処理施設が次々と建造されている。ただし、黒竜江省のトウモロコシ専門家によれば、現在も省内で加工される割合は 2~3 割程度であり、今後はアルコール等の工業用加工の振興により、省内加工を増加することが必要であるとしている。

²⁴ 香港で登録し、香港株式市場に上場しているが、もともと国有企業で、現在も国家資源委員会の管理下にある。

表 25 東北三省の主なトウモロコシ加工メーカー

企業	所在	年間処理能力(万t)	製品	経営
全国展開拠点				
中糧集团有限公司(COFCO)	共同出資含む。	700		国有
吉林燃料乙醇	吉林省	200	燃料・食用アルコール	中石油、吉糧と合併
中糧生化能源(榆樹)	吉林省	60	でん粉、糖化製品等	
中糧生化能源(榆樹)	吉林省	60	でん粉、糖化製品等	
黄龍食品	吉林省	60	でん粉、糖化製品等	廣南と合併
華潤賽力事達	吉林省	65	でん粉、糖化製品等	香港華潤(カーギル)と合併
中糧生化能源(肇東)	黒竜江省	120	バイオエタノール、アルコール	
中糧生化能源(龍江)	黒竜江省	60	でん粉、糖化製品等	
吉林省				
長春大成実業集団	吉林省	1,000		大成生化科技集団(香港)
長春大成(吉林省に計 16 社)	吉林省	na		
長春大成(ハルビン)	黒竜江省	na	でん粉、糖化製品、グリコロール、アミノ酸糖	
錦州元成生化科技公司	遼寧省	60		
松原吉安生化有限公司	吉林省	200	アルコール、酢酸	吉安新能源
吉林酒精工業集団	吉林省	160	アルコール等	吉糧集団傘下
吉林省新天龍酒業有限公司	吉林省	90	食用アルコール等	民営
梅河口阜康酒精有限公司	吉林省	70	食用アルコール等	民営
四平天成玉米開発公司	吉林省	60	でん粉、糖化製品	大連華利糧油傘下
吉林市博大生化有限公司	吉林省	60	アルコール等	民営
長嶺吉隆玉米開発有限公司	吉林省	40	でん粉等	民営
吉林天景食品有限公司	吉林省	30	トウモロコシ食品、ジュース	民営、香港企業と合併
吉林凱賽生物技術有限公司	吉林省	30	でん粉・糖化製品等	民営
東豊華糧生化	吉林省	20	アルコール等	民営
黒竜江省				
華潤酒精有限公司	黒竜江省	120	アルコール等	外資、香港華潤(カーギル)
鶴岡興澤集団	黒竜江省	100	アルコール・でん粉等	民営
黒竜江龍風玉米開発有限公司	黒竜江省	80	でん粉・糖化製品	山東諸城興玉米開発(山東)傘下
黒竜江昊天玉米開発有限公司	黒竜江省	60		
黒竜江農墾	黒竜江省	57	でん粉・アルコール	国有、墾区内各地で生産
哈工大呼蘭玉米でん粉糖公司	黒竜江省	50	でん粉・糖化製品	ハルビン工業大学新高傘下
黒竜江成福集団	黒竜江省	40	食品・タンパク等	民営
大慶博潤生物科技有限公司	黒竜江省	30	アルコール等	民営
黒竜江省渤海集団(4 社)	黒竜江省	25	でん粉、糖化製品等	民営
黒竜江格林糧食開発有限公司	黒竜江省	20	でん粉・糖化製品等	環宇集団(南京)傘下
集賢鼎盛園集団	黒竜江省	20	アルコール等	民営
佳木斯陽光生化有限公司	黒竜江省	20	アルコール等	民営
黒竜江盛龍酒精有限公司	黒竜江省	20	アルコール等	民営
ハルビン中国醸酒有限公司	黒竜江省	20	アルコール等	民営
黒竜江合興糧油米業有限公司	黒竜江省	20	アルコール等	民営
ハルビン菊花生物科技有限公司	黒竜江省	18	グルタミン酸等	山東聖花集団傘下
遼寧省				
峻煌生化科技集団有限公司(5 社)	遼寧省	157	でん粉・アルコール等	民営
岫州生化集団	遼寧省	150		民営
大慶展華生化科技有限公司	黒竜江省	120	でん粉等	
昌図生化科技有限公司	遼寧省	30		
遼寧金信生化有限公司	遼寧省	66	でん粉等	シンガポール Wilmar 傘下
瀋陽市吉隆玉米生化有限公司	遼寧省	50	でん粉等	韓国 CJ グループ傘下
葫蘆島希端集団公司	遼寧省	35	アルコール等	民営
魯洲生物(遼寧)有限公司	遼寧省	20	でん粉等	魯洲集団(山東)傘下

出所) (張馨元 2010b)、(CIFCO 2012)、黒竜江墾区統計年鑑 2012、各社ウェブサイト等を基にプロマーコンサルティング作成

2.2 精米加工・ブランド米

中国のコメにおけるブランド化は、日本のようなコメの個別品種ではなく、主に精米メーカーのメーカーブランドが先行しており、なかでも全国的なトップ精米メーカーが中糧、益海嘉里の 2 社となっており、東北三省にも大型の精米拠点を持つ。また黒竜江省農墾の北大荒米業集団など、各省の地元の精米メーカーも国家級あるいは省級の龍頭企業に指定され、大型精米施設が導入されている。

国家質量監督検疫総局が認定する中国の地理的表示農産品は、2012 年現在で約 1290 品目が登録されているが、ここにコメも含まれ、遼寧省では盤錦米、桓仁米、吉林省では梅河米、延辺米、姜家店米、黒竜江省では五常米、方正米、响水米、珍宝島米、泰来米、建三江米が登録されている。なかでも特に、黒竜江省の五常米が全国的に有名であり、市が中心となって地域ブランド化を推進している。

以下では、東北三省における精米加工業の概要と、五常米のブランド化の状況についてとりまとめる。

2.2.1 精米加工産業²⁵

中国で国家糧食局²⁶が統計的に把握している精米加工業者数は 2010 年で 8519 社で総加工能力 2 億 4339 万トンである。うち、日産処理能力 400～1000 トン（年間換算 13～33 万トン程度）の加工業者が 172 社で合計処理能力 2338 万トン、日産処理能力 1000 トン以上（年間換算 33 万トン以上）の加工業者が 47 社で合計処理能力 2129 万トンとなっており、日産処理能力 400 トン以上の比較的大規模な加工業者によるものが 2 割弱となっており、産業は分散している。総精米生産量は 7295 万トンで、精米率を 67%とすると、精米場の稼働率は約 45%となっている。大型の設備ではサタケの精米設備が多く導入されている。

黒竜江省では後述するように省政府主導で年間処理能力 30 万トンクラスの精米地区整備を進めており、現在中国で最も粳米処理能力が大きい省となっており、合計処理能力 4528 万トンと全国の 18.6%を占める。ただし粳米生産量では 1844 万トンで全国シェア 9.4%、精米生産量では 826 万トンで全国シェア 11.3%であり、現時点では精米施設の稼働率が 27%と低くなっていることが指摘できる。精米施設の大規模化・近代化が急速に進められており、精米能力が大きく拡大してきた。遼寧省、吉林省でも精米施設への投資が進んでおり、粳米処理能力はそれぞれ 982 万トン、1003 万トンとなった。

表 26 主要省の粳米生産量、粳米処理能力と精米加工量（2010）

	粳米生産量	シェア	粳米処理能力	シェア	精米加工量	シェア
全国	19,576	100.0%	24,339	100.0%	7,295	100.0%
東北三省						
遼寧	458	2.3%	982	4.0%	204	2.8%
吉林	569	2.9%	1,003	4.1%	244	3.3%
黒竜江	1,844	9.4%	4,528	18.6%	826	11.3%
その他主要省						
江蘇	1,808	9.2%	1,728	7.1%	645	8.8%
安徽	1,383	7.1%	2,448	10.1%	961	13.2%
江西	1,858	9.5%	3,017	12.4%	941	12.9%
湖北	1,558	8.0%	2,996	12.3%	1,062	14.6%
湖南	2,506	12.8%	2,294	9.4%	679	9.3%
四川	1,512	7.7%	935	3.8%	277	3.8%

出所) 2011 中国糧食年鑑

²⁵ (朴 2011)、(朴 2012)

²⁶ ただし、統計補足率は(朴 2011)によれば 8 割程度と低い。

東北三省の精米業界では新規の大型投資が相次いでいる。全国展開を行っている企業では、トウモロコシと同じく国有企業であり、かつ中国最大の農産食品企業集団である中糧集団（COFCO）の活躍が特筆される。中糧集団は急速に精米分野への投資を拡大し、中国最大の精米メーカーとして成長し、2012 年現在精米能力は全国で 408 万トンに及ぶ。幅広く全国的に精米施設を整備しており、東北三省では黒竜江省や吉林省、遼寧省に子会社を計 7 社、158 万トンの処理能力となっている。「福臨門」が基幹ブランドで、国有企業の中でも最も重視されている企業の一つであり、流通・政策面等から多くの利点を有する。またコメの輸出権利を有しており、黒竜江省産のコメ輸出を一手に扱っている。

中糧に並んで中国 2 大精米メーカーであった益海嘉里は、シンガポールの Wilmar 傘下の外資企業で、「金龍魚」、「口福」、「胡姬花」等のブランドを有し、特に小売店等へのマーケティング能力に優れる。ただ過去 4~5 年で精米能力では中糧からは大きく引き離され、年 150 万トンであり、東北三省では黒竜江省に 2 社、32 万トンの処理能力となっている。

近年精米事業に新たに参入したのが中央政府の食糧備蓄事業を担当する中国備蓄糧管理会社（中備糧）で、年精米能力を 156 万トンに急拡大し、大手精米メーカーの一角を占めるようになった。ただし、現時点で東北三省では遼寧省に 10 万トンの処理施設を有するに留まっている。他に、北京の京糧や上海の緑都集団、上海糧油も吉林省や黒竜江省に処理施設を有している。

地元精米メーカーで最大の企業は、黒竜江省農墾の傘下にある黒竜江北大荒米業であり、精米能力は年間 300 万トンと中糧に次ぐ規模となっている。農墾ではその他に精米業者や民間への委託加工がある。黒竜江北大荒米業は「四季香」、「鮮香米」等のブランドを有するが、中糧や益海嘉里に比べるとマーケティング力に劣ると言われている。黒竜江省からの粳米の他省への移出の際の物流補助制度があり、農墾で生産されている粳米のうち 4 割程度は精米されず、粳米のまま販売されている。また、北大荒米業は輸出権利を有していない。

黒竜江省では、他に年間処理能力 100 万トンの精米メーカーが 2 社あり、うち 1 社は国有企業の新良糧油集団傘下の黒竜江米業、もう 1 社が民営の三江平原米業集団である。その他に 15 万トン以上の規模の精米企業／企業集団が 20 社程度あるとみられる。

吉林省には中糧、京糧が進出する他、最大の地元精米メーカーは吉林省政府傘下で食糧備蓄を統括する国有企業吉林糧食集団（吉糧）の子会社である吉林糧食集団米業で、45 万トンの精米処理能力を有する。吉糧は大連等の輸出倉庫も有しており、中糧と並んでコメの輸出権利を有する 2 社のうちの 1 社となっている。他に裕豊米業、徳春米業、禾豊米業等の龍頭企業がある。

遼寧省には中糧、中備糧が進出する他、同省で有名なブランド米である盤錦米の産地である盤錦市に遼寧中稲、盤錦鼎翔米業等の精米メーカー、隣接する錦州市に同州最大の精米メーカーである北鎮市五峰米業（精米能力 50 万トン）が位置している。

国家工商行政管理総局商標局が認定する中国の著名商標である「中国馳名商標」には、黒竜江省からは泰豊糧油の「梧桐」、响水米業の「响水」、人和米業の「龍水」、実実米業の「実実」が選出されたほか、次節で説明する五常市コメ協会の「五常」が地域ブランドで含まれた。遼寧省からは、盤錦鼎翔米業の「粳冠」、瀋陽北霸米業の「北霸」、そのほか地域ブランドで盤錦市コメ協会の「盤錦米」、営口市農業センターの「営口米」が含まれた。吉林省は中国馳名商標へ選出されるのが遅れたが、2010 年に徳春米業の「御泉」、裕豊米業の「好雨」が認定されている。

次頁に、東北三省に展開する主要精米メーカーのリストを挙げる。

表 27 東北三省の主な精米メーカー

企業	所在	年間精米能力(万t)	ブランド	経営
全国展開・上海／北京拠点				
中糧集团有限公司(COFCO)	全国展開	408	福臨門など	国有
中糧米業(绥化)	黒竜江省	30		
中糧米業(虎林)	黒竜江省	30		
中糧米業(五常)	黒竜江省	10		
中糧米業(吉林)	吉林省	30		
中糧米業(磐石)	吉林省	5		
中糧米業(瀋陽)	遼寧省	30		
中糧米業(大連)	遼寧省	23		
益海嘉里投資有限公司	全国展開	150	金龍魚、口福、胡姬花など	シンガポール Wilmar 傘下
益海(佳木斯)	黒竜江省	20		
益海(ハルビン)	黒竜江省	12		
中国備蓄糧管理会社(中備糧)	全国展開	156		国有
鞍山中備糧米業有限責任公司	遼寧省	10		
北京糧食集团古船米業(京糧)	北京	na	古船など	国有
京糧集团(榆樹)	吉林省	30		
緑都集团株式会社	上海	na	珍宝島など	民営、上海良友等傘下
緑都集团(黒竜江)	黒竜江省	50		
上海糧油集团	上海	na		民営
吉林豊森米業有限公司	吉林省	20	洮児河、東北豊盛など	
黒竜江省				
黒竜江省北大荒米業集团有限公司	黒竜江省	300	四季香、鮮香米など	国有、農墾傘下
黒竜江米業株式会社	黒竜江省	100	冰灯、太陽島など	国有、新良糧油集团傘下
鶴崗市三江平原米業集团有限公司	黒竜江省	100	三江平原	民営
五常緑風優質米開発集团有限公司	黒竜江省	60	五常米、五常香米など	国有
黒竜江泰豊糧油食品有限公司	黒竜江省	50	梧桐	民営
黒竜江鶴鳴米業集团有限責任公司	黒竜江省	45	鶴鳴、神妻など	国有
黒竜江省万源糧油食品有限公司	黒竜江省	40	万源	民営
黒竜江福源米業集团公司	黒竜江省	40	福源	民営
五常市金福粮油有限公司	黒竜江省	30	喬府大院	民営
黒竜江鉄力九河泉米業有限責任公司	黒竜江省	30	全香米、雪花米など	民営
鶴崗市実実米業有限責任公司	黒竜江省	30	実実、珊瑚など	民営
黒竜江省東北大自然糧油有限公司	黒竜江省	30	-	民営
黒龍江省香蘭米業集团	黒竜江省	25	湯旺河など	民営
慶安鑫利達米業有限公司	黒竜江省	24	新粒達、慶鑫など	民営
鶏西興達米業集团	黒竜江省	22	碧珠	民営
黒竜江省人和米業有限公司	黒竜江省	20	龍水	民営
齊齊哈爾市宏河米業有限公司	黒竜江省	20	嫩晶、金稻贏	民営
黒竜江省三緑源米業有限公司	黒竜江省	15	三緑源	民営
黒竜江响水米業株式会社	黒竜江省	15	响水	民営
延寿県亮珠糧油貿易有限公司	黒竜江省	15	亮珠	民営
孫斌鴻源農業開発集团有限責任公司	黒竜江省	15	孫斌	民営
黒竜江錦稻公司	黒竜江省	15	-	国有、金谷糧食、永安集团傘下
吉林省				
吉林糧食集团米業有限公司(吉糧)	吉林省	45	新吉糧、珍稻香など	国有
吉林裕豊米業株式会社	吉林省	32	好雨など	民営
吉林省德春米業集团株式会社	吉林省	15	御泉など	民営
吉林省禾豊米業有限責任公司	吉林省	10	関東禾豊など	民営
遼寧省				
北鎮市五峰米業加工有限公司	遼寧省	50	五峰、大紅鷹など	民営
遼寧中稻株式会社	遼寧省	30	盤錦蟹田水稻など	民営
瀋陽北霸米業集团	遼寧省	30	北霸など	民営
盤錦鼎翔米業有限公司	遼寧省	20	粳冠など	民営

出所) 各社ウェブサイト等を基にプロマーコンサルティング作成

2.2.2 五常米²⁷

五常市は黒竜江省の最南端に位置し、水利・気象・土壌条件にも恵まれ、全国的にジャポニカ優良米の産地として最もよく知られている。満洲時代に朝鮮から移民が進められ、現在も朝鮮族の割合が高いが、朝鮮移民を中心にした稲作開発が進んでおり、黒竜江省の中で国有農場の割合は少ない地域である。特に米価が低迷した 1990 年代後半から良食味米の導入が活発になり、市政府が主導して緑色食品（減農薬栽培）や有機栽培、ブランド認定、良食味品種（稻花香 2 号など）導入等を推進した。

五常市は食糧流通管理制度の下で 1999 年に糧食局の傘下に、緑風優質米開発集団有限公司を設立して国営の食糧倉庫や精米加工企業を傘下に納めようとしたが、その後中国全体の食糧流通システムの改変に伴って同社を食糧局から独立させた。同社は 2009 年には外資に買収されている。

現在五常市には五常市金福糧油（年間処理能力 30 万トン）、中糧米業子会社（同 10 万トン）、五常陽光米業（同 5 万トン）等、精米加工企業が 250 社程度あり、年加工能力は 320 万トンを超えるとみられ、五常市米に関するブランドが 300 種近く登録されている。

これら多数の精米企業が林立する中で、五常米ブランドを保護・育成するため、市の糧食局や農業局等 17 部門が共同で 1997 年に五常市コメ協会を設立し、高値買い取りや肥料補助等の優遇措置による緑色食品・有機栽培の促進、五常米のブランドや統一マークの設定、産地証明商標の取得等を行った。

2000 年代初頭には五常米の偽物や低品質米が出回り大きな問題となり、2008 年になって取締りを開始、ブランド保護を強化している。しかし、五常市糧食局は、現在は約 80 万トンの同市の生産量に対し、全国市場に出回っているニセ五常米は 1,000 万トンにも昇ると推計している²⁸。

²⁷ (朴, 青柳, et al. 2010)(朴, 青柳, et al. 2011)(朴, 坂下, et al. 2011)

²⁸ 大慶晩報 2012 年 1 月 5 日付記事「五常米」9 割は偽物

2.3 大豆加工²⁹

中国食品工業協会豆製品専門委員会によれば、2011 年の中国の大豆消費量は約 6800 万トンで、国産が 1350 万トン、輸入が 5450 万トンであった。このうち食用に用いられたのは 1100 万トンと国産の約 8 割を占め、食用のうち直接消費が 300 万トン、伝統的な大豆食品（豆腐、干し豆腐、醤油・豆鼓等発酵調味料、豆乳等）加工が 550 万トン、その他の大豆加工食品（大豆タンパク等）が 250 万トンであった。

1990 年代に一大産業として振興された黒竜江省の大豆搾油・加工業は、中国の大豆輸入を自由化し輸入が増加するとともに衰退し、現在は多くの企業が操業を停止している。東北農業大学の大豆専門家によれば、黒竜江省の大豆加工業者はほぼ全て不振という状況である。2010 年の黒竜江省の大豆の生産量が 585 万トンであるのに比べて、大豆処理能力は 1442 万トンと大幅に上回る。黒竜江省の大豆からの搾油量が約 100 万トンで、搾油業だけで 660 万トン程度大豆を消費しているが、省内での生産では不足するため、2010 年も 250 万トン程度を米国やブラジル等から輸入している。黒竜江省の搾油業者は、沿岸に搾油施設を有し交通の便が良く、輸入大豆に頼る江蘇省、山東省、広東省等の大豆搾油業者と対抗するのが難しくなっている。

黒竜江省政府は大豆加工産業の育成について、特に食品加工と高度加工を中心にした支援を引き続き行っているが、米やトウモロコシ、畜産に比べて政策的重要度は低くなっている。またこういった背景の中で、農墾を始め黒竜江省からロシアやブラジル、アフリカ等での大豆生産・加工への投資が加速している。

表 28 主要省の大豆生産量、大豆・油糧原料処理能力と大豆油生産量（2010）

単位) 万トン

	大豆 生産量	シェア	大豆 処理能力	シェア	油糧原料 処理能力	シェア	食用油 生産量	シェア
全国	1,508	100.0%	7,064	100.0%	13,111	100.0%	2,243	100.0%
東北三省								
遼寧	34	2.3%	520	7.4%	562	4.3%	109	4.9%
吉林	87	5.8%	249	3.5%	309	2.4%	38	1.7%
黒竜江	585	38.8%	1,442	20.4%	1,471	11.2%	104	4.6%
その他主要省								
山東	39	2.6%	1,031	14.6%	1,723	13.1%	408	18.2%
江蘇	60	4.0%	881	12.5%	1,770	13.5%	540	24.1%
広東	15	1.0%	623	8.8%	723	5.5%	375	16.7%
河北	28	1.9%	457	6.5%	583	4.4%	150	6.7%
広西	17	1.1%	425	6.0%	516	3.9%	109	4.9%
浙江	13	0.9%	243	3.4%	331	2.5%	69	3.1%
福建	14	0.9%	218	3.1%	338	2.6%	117	5.2%
河南	86	5.7%	214	3.0%	452	3.4%	83	3.7%

出所) 2011 中国糧食年鑑

注) 食用油は菜種油、落花生油等を含む

黒竜江省では大豆生産のうち、農墾が占める割合が 3 割程度に達しているが、大豆加工業でも農墾傘下の九三糧油が最大手で、年間大豆処理能力は 1,000 万トンあり、大豆油、大豆油カス、豆腐や投入等の加工食品、大豆タンパク、ビタミン剤やその他医薬品等の生産も行っている。民営企業では陽霖油脂集団が最も大きく、年間大豆処理能力は 230 万トンになる。その他近年は大豆を原料としたタンパク質やビタミン剤等の高度加工品生産に特化した企業があり、黒竜江省政府の重要支援対象となっている。

²⁹ 国家糧油信息中心ウェブサイト、中国食品工業協会豆製品専門委員会ウェブサイト、申銀万国期貨「大豆周报」等を参照した。

表 29 黒竜江省政府支援対象の主な大豆加工メーカー

企業	年間処理能力(万t)	製品	ブランド	経営
九三糧油	1,000	食用油、醤油、食品、大豆タンパク等	九三	農墾傘下
陽霖油脂集団	230	食用油、油脂製品、タンパク等	陽霖	民営
大自然油脂公司	-	食用油等	-	民営
大慶日月星植物蛋白集団	20	大豆タンパク等高度加工専門	-	
ハルビン高科大豆食品公司	10	大豆タンパク等高度加工専門	-	ハルビン高科 技集団傘下

出所) (ジェトロ 2007)、各社ウェブサイト等を基に著者作成